

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	医療法人社団 野村医院	代表者	理事長 野村 和至	法人・ 事業所 の特徴	理念、命の輝きを利用者、地域社会、職員と共有する施設。高齢者を人生の先輩として敬意をもって接し、利用者の権利と意思を尊重し、安全・安心な支援。「善循環」法則を基盤に互いに協力し、問題解決を行い、組織として誠意ある支援。地域に開かれた施設。バイスティックの7原則に沿った支援。
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 のむら陽光園	管理者	施設長 野村 繁利		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1人	2人	1人	13人	人	人	人	6人	人	23人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	サービス評価前に個別評価の摺合せが行えるよう勉強会を設ける。	全スタッフに対して検討会の呼びかけを行っている。常勤スタッフは検討会に参加できている。	スタッフ自己評価の設問に対する解釈の近いが多いため回答後にフィードバックできると良かった。	各項目理解が深まるように毎月の会議で1項目ずつ評価項目を進める。
B. 事業所のしつらえ・環境	記録物などの書類を整理する。	整理整頓を呼び掛けているが書類やボールペンが出したままになっていることがある。	悪臭などは見られていない。毎日掃除してくれている。	ボールペンを個人持ちにして感染対策を兼ねて出しっぱなしを改善する。退社時には書類は元の位置に戻す。
C. 事業所と地域のかかわり	地域行事の日はできる限り勤務調整をしてそれでも人数が足りない場合は地域と事前打ち合わせをして地域ボランティアを依頼させていただく。	土日の人員確保に向けて職員確保に取り組んでいるが成果が上がらない。	当日の職員の人数で参加可能なご利用者を判断していないか、参加希望があるご利用者にご参加頂けているか懸念される。	年間行事の把握とボランティアの依頼をする。土日の人員を確保して地域行事にご参加いただく。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	個別ケアの推進。外食や散策などを実施する。	毎月の職員会議で個別ケアについて検討できている。実際に地域に出て笑顔になった等成果も出ている。	成果の出ているご利用者がいる反面地域と希薄な方もいらっしゃるの事実。希望しない方には無理強いしないようにする。	地域との関わりが深まっているご利用者もいるがまだ関係が希薄な方もいらっしゃるため、今の個別ケア会議を継続して対応していく。
E. 運営推進会議を活かした取組み	運営推進会議で出た意見などを職員会議で取り上げて改善に努める	職員会議で取り上げるような改善すべき事項は該当なし。	地域行事のお知らせをいただいているので事前に計画することができている。	職員会議で推進会議内容を議題に取り入れる。ロングショートご利用の妥当性について職員会議で検討して推進会議でご報告する。

F. 事業所の 防災・災害対策	防災訓練の際に実際に地域の方に 陽光園連絡網で連絡する。	定期的に防災訓練を実施でき ているが連絡網を活用できてい ない。	事業所だけの訓練で手一杯に なっている。	BCP の一貫として防災訓練を実 施する。災害発生時に対応でき るような役割分担を実施する。
--------------------	---------------------------------	--	-------------------------	--